



世界に希望を生み出そう

高岡 **北**
ロータリークラブ
TAKAOKA-NORTH
ROTARY CLUB



例会日・毎週月曜日 12:30～13:30	創立・1980年5月19日	会長 魚住 晃一
例会場・ホテルニューオータニ高岡	認証・1980年6月12日	幹事 水原 延幸
	国内創立順位・1489	公共イメージ委員長 島 幸美

第 1929 回 例会 4 月 15 日 (月)

◇点 鐘

◇国歌斉唱

◇ソング “四つのテスト”

◇ゲスト並びにビジターの紹介

ゲスト：射水神社 宮司 炭谷 淳 様
PC操作 田中 様
米山記念奨学生 アヨブ アテシャーム 様
富山第4グループガバナー補佐 義浦 実 様

◇会長挨拶並びに報告

皆さんこんにちは。今日はゲストが多いです。自分が会長になってから一番の人口密度かもしれません。

子育て支援制度が2026年度から始まるそうです。社会保険料にプラスされる形でワンコインから収入によってはそれ以上課されるらしいです。社会保険料に組み込まれるということは目に見えない納税ということでステルス納税とされています。大体0.8%の追加だそうです。例えば消費税を0.8%上げると皆さん反対されますが、見えない形でちょっとずつ徴税することによって、いつの間にかお金がとられている感じです。実際に物を買って0.8%消費税として徴税されると計算も面倒くさいし、給料から天引きされるのであれば、あまり意識せず、なんとなくとれるので、考えられているなと思いました。実際子育てには費用が沢山掛かります。昨日、高校生の次男が「バーベキューを4～5名でやりたい。白いご飯を用意してくれ」と言ったので、3合あれば足りるかなと思っていたのですが、一瞬でなくなりました。結局一人1合以上食べていて、食後にアイスクリームを食べないだろうと思いながら食べるか声を掛けたら、食べる！と。高校生は食べる量が底なしでした。自分も食欲は負けませんが、子育てにはお金がかかりますね。

◇出席報告 出席者 21名 メイクアップ済 0名

名誉会員	会員数	本日の出席率	4/3例会 修正出席率
1名	33名	77.78 %	78.26 %

◇本日入会の木村由希子会員に、ロータリーエンブレムをお渡しする



氏名：木村由希子 Yukiko Kimura
事業所：有限会社木村刺繍 代表取締役

◇米山記念奨学生 アヨブ様に奨学金をお渡しする
アヨブ アテシャーム (AYOUB, AHTEHSHAAM)



富山大学 工学研究科 工学専攻 修士課程
イスラム教徒で、食事はハラールフード。

◇ニコニコBOX報告

富山第4グループガバナー補佐 義浦 実 様：
例会に参加して。
魚住会長：本日はにぎやかな例会となりました。皆様ごゆっくりと楽しんでください。炭谷様、本日卓話よろしくお願ひします。
勝山 功君：気温が20度越えということで、交換をしました。
野尻信晴君：四重奏を見てきました。1年に一回であと20回もいけませんネ
村牧啓功君：勝山さん、ありがとうございました。結婚記念日のお花をいただいたお礼

【今年度ニコBOX累計額 358,000円】

◇幹事報告

- 1) 本日例会終了後に、ガバナー補佐との懇談会を開催いたします。
- 2) 4月21日(日)に、魚津ロータリークラブをホストクラブとして「地区研修・協議会」が開催されます。ご参加の方はよろしくお願いいたします。
- 3) 次回、4月22日(月)例会は、「地区研修・協議会」報告です。ご確認ください。
- 4) 配布：①2024・25年度理事役員及び委員会構成
②6/17(月)開催「第81回北麗グリーン会」のご案内
- 5) 回覧：①ガバナー月信NO.10(テーブル毎)
②会報NO.30、31、32(テーブル毎)
③米山梅吉記念館館報 2024年春号

◇委員会報告

*島 公共イメージ委員長より「ロータリーの友」4月号の紹介

◇本日のプログラム(担当:友好クラブ)

卓話「射水神社 式年大祭の歩み」

射水神社 宮司 炭谷 淳 様

射水神社は、二上の地から御遷座されてより、令和7年、150年の節目を迎えます。これまでも10年毎の式年大祭では、元宮である二上射水神社との地縁を結ぶ「御神幸」を最重義として、厳粛に斎行してきました。



創建は、奈良時代以前とされ、御祭神「二上神」は、二上山を御神体とし、太古より二上山麓に鎮座されました。標高274mですが、その山容はたいへん秀麗で、古来より「神宿る山」と仰がれました。

越中国守であった万葉歌人・大伴家持卿も、二上山をこよなく愛し、「神ゆえに貴いのか、山が立派だから常に見たく思うのだろう」と、長歌「二上山の賦」で、神の山と褒め称え、仰ぎ詠んでいます。

中世以降は、神仏混淆により、「二上山大権現養老寺」となります。二上山全体を境内とする神域は広大で、越中全土の各戸より初穂米一升二合奉納の制によって盛大を極めました。しかし、幾度の兵火で社殿が焼失、縁起も散失しました。

江戸時代に入り、加賀藩の祈禱所となって復興。慶長15年(1610)、加賀藩初代藩主前田利長公より社地の寄進が

あり、保護を受けました。同時に戦国時代に絶えていた初穂米奉納の制を復活され、明治3年まで続きました。

明治元年、神仏分離令が出されて以降は、再び射水神社と改称。明治4年、国幣中社に列せられ、同8年9月16日、前田利長公の所縁の高岡城本丸跡の現在地に御遷座されました。



現在、二上射水神社は、古代信仰を今に伝える築山行事(県指定無形民俗文化財)、平安時代中期作の木造男神坐像(国指定重要文化財)を守り続け、射水神社元宮として、今日も篤い信仰を集めています。

式年大祭最重儀の「御神幸」が初めて行われたのは、明治35年です。公文書に「旧社地へ神幸相成候者、氏子モ歓迎シ奉り、大二神慮二叶ヒ、永ク神人一和ノ基ヲ啓キ」と記され、当日の様子は、騎馬の知事・宮司等を始め、腕車80輛、総員幾百人とあり、華麗雄大、且つ大規模な御神幸であったことが窺えます。



戦後、国家管理を外れた神社は衰頹しましたが、元内務官僚・参議院議員の館哲二氏が奉賛会組織を立ち上げられ、高辻武邦富山県知事を総裁、堀健治高岡市長を副総裁とし、自らは復興活動の先頭に立てるように奉賛会長に就任。昭和29年、混迷する時局のため途絶えていた古式の神幸祭を復興、遷座八十年祭を斎行されました。以後、式年大祭は、「二上神」と地域の人々が心通わせ、国家の繁栄、地域の安寧を祈り、盛大に斎行されてきました。

令和7年の『御遷座百五十年祭』は、射水神社と、元宮・二上射水神社が車の両輪の如く、あらためて悠久の歴史を共有しながら、高岡の礎を築かれた大伴家持卿、前田利長公に親しみと敬愛を持ち、さらには高岡の発展に尽くされた多くの先人たちに感謝の祈りを捧げる祭りとし、高岡の活性・発展に繋げて参りたいと存じます。